

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり



1970年(昭和45年)生まれ 県立君津高卒
専修大卒、早稲田大大学院 政治学研究科修了

事務所連絡先 Fax: **0476-36-7802**

HP: <http://www.iwai-y.jp> メール: mail@iwai-y.jp

〒2701515 印旛郡栄町安食台 2-26-23 (栄町役場前)



twitter



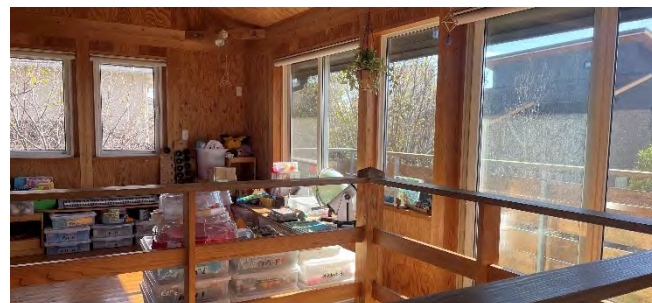
blog



facebook

印西のフリースクール 移転に向けた支援募る

学校に通いづらさを感じる子どもたちが通う、印西市牧の原のフリースクール「ぴおねろの森」。受け入れ人数の増加を受け、市内での移転を計画しているところですが、市民からの心ある支援が頼りとなっています。



●手弁当運営で利用料は昼食代込 500 円/日

昨年 11 月に訪れたぴおねろの森は、印西牧の原駅からほど近い閑静な住宅街にある一軒家。今も代表が住む民家が使われています。20 畳はあろうかというリビングルームに足を踏み入ると、20 名余りの子どもたちがいくつかのグループに分かれ、ゲームをしたりパソコンに向かっていたりします。陽光が降り注ぐ明るい部屋に手作りの温かいご飯。フリースクールなら通えるという子どもの気持ちがよくわかるところです。

ところで、民間施設であるフリースクールの利用料は高くなりがちで、調査によれば入会金は平均 5 万 3 千円、授業料は月額 3 万 3 千円に上ること。そんな中でも、ぴおねろの森では公立学校並みの負担で通えるようにと、利用料は昼食代込みで一日 500 円のみ。全日通所(週 3 日×4 週=12 日)でも、利用者負担額はわずか 6 千円です。これは、運営スタッフの報酬額が月 3 千円(交通費支給なし)、曜日固定サポーターは交通費支給

なしの無報酬と、まさに「手弁当」のボランティアスタッフに支えられているからこそなのです。

●子どもたちの貴重な居場所をなくす事はできない

さて、これまで民家を使用してきたぴおねろの森ですが、登録者は 70 人に迫り、受け入れが限界に達していると言います。個人宅であることから安定した運営が難しく、地域との交流も少ないため、学びの機会が閉ざされがちとのこと。そこで、同スクールでは「広々とした空間」「自然と触れ合い、好奇心を育める環境」などの条件を満たした適地を見つけ、移転を計画しています。

課題は 2 千万円以上かかる費用の捻出で、非営利活動を続けてきた同スクールで用意できる金額ではありません。元教員や看護師、心理学講師など、キャリアを積んできたスタッフが手弁当で支えるフリースクール。子どもたちの貴重な居場所がなくなることがないように、岩井からも、皆さんの心ある支援をお願いできたらと思います。

簡単操作で 1 口 1,000 円～、手数料少ない

税制優遇
ご希望
なし

頻度が選べます
今回のみ or 毎月

方法が選べます
カード or 銀行振込
銀行振込の場合は
住信 SBI ネット銀行
振込先口座をメールでご案内

金額が選べます
1,000 円以上であれば
任意の金額入力も可能

非営利活動のための
寄付募集サービス
congrant

1 口 1,000 円～
ご寄付が可能です

↑ QR コードから詳細についてご覧いただけます

印西ごみ処理施設火災 全国で相次ぐ「バッテリー火災」

12/27 に発生した印西グリーンセンターの建物火災。被災施設の補修について検討が進められる一方、全国で相次ぐ、リチウムイオン電池混入を原因とする火災に、関係者は頭を抱えています。



●「不燃物」処理施設内の設備を広く消失

印西市内にある印西グリーンセンター（印西地区環境整備事業組合＝印西市・栄町・白井市で構成）で火災が発生したのは、12月27日の午前のこと。ベルトコンベアーなど「不燃物」処理施設内の設備を広く消失し、ごみ処理ができない状況が続いています。粗大ごみの直接搬入が中止（1月6日時点）となっている一方で、火災の影響がなかった「可燃ごみ」に加え、施設敷地内に仮置きできるとの見通しから、その他の家庭ごみについても通常通りの収集運搬業務が行われています。

●令和10年には新施設稼働 被災施設再建は？

問題は、被災した施設を再建させるか否かについてです。同施設には火災保険が掛けられていたもの

の、「被災設備」は保険対象外だったとすることで、復旧にはそれなりの費用がかかることとなります。印西グリーンセンターは、印西市内に令和10年稼働開始の新施設を建設中であり、現施設を再建させたとしてもわずか3年余りしか使われないことを考えるならば、その期間だけ近隣市などに処理委託することも選択肢の一つになるわけです。

いずれにしても、時間的猶予がない中での決断であり、関係者にとって難しい判断となりそうです。

●コードレス掃除機や電動工具にもリチウムイオン

さて、今回のごみ処理施設火災の原因は、不燃ごみ破碎施設へのリチウムイオン電池の混入とされています。リチウムイオン電池関連の火災は全国で相次いでおり、今年1月3日には埼玉県川口市内のごみ処理施設でも同様の火災が発生。また、令和5年に発生した都内ごみ処理関連施設火災25件のうち、リチウムイオン電池が原因であったものが9件と、最も多かったとされています。

衝撃により出火することがあるリチウムイオン電池は、モバイルバッテリーの他、スマートフォンやノートパソコン、コードレス掃除機や電動工具などにも内蔵されており、気づかれないまま「不燃物」として出されてしまうことも少なくありません。グリーンセンター職員の手でチェック作業が行われているものの、人手に限りがあり、とても追いつかないと言います。

印西グリーンセンターでは、広報紙を通じて、ごみ分別についての啓発を重ねてきています。岩井からも、どうか一層の注意をお願いしたいと思います。

